

緑化だより

No.183 令和4年6月号



ヤマアジサイ “七変化”

- 季節の花(ツバナ(チガヤ))
- 水生昆虫の話(カワゲラの仲間
ナガカワゲラ属)
- 小さな世界こけ
(コケが観察できる場所(20)
オオギボウシゴケモドキ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 緑学の本

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

ツバナ(チガヤ)

「浅茅原 つばらつばら もの思(も)へば

古(ふ)りにし里(さと)し 思ほゆるか(も)」

大伴旅人 万葉集 卷3-033

これを訳しますと

(目の前のチガヤの草原を、心ゆくまま、しみじみと、物思いにふけていると、故郷のことが、思い出されてきます。)

都から遠く離れた九州の太宰府に長官として赴任している大伴旅人は、生まれ育った明日香(奈良県)を懐かしく思い、チガヤの野原を見て大和の風景を思い起こして詠っています。

チガヤ(茅萱、茅)は、イネ科チガヤ属の多年草で、古名は千(茅)で、花穂はチバナまたはツバナとも呼ばれます。広島ではズボウとかズボナと言われます。

本州、四国、九州、琉球列島に自生し、日当たりの良い川原、土手、田畑などの空き地に全国どこでも生えている雑草です。国外ではアジア大陸、東南アジア、オーストラリアに分布しています。

草丈 40~80cm の群落をつくり、5~6 月に伸びた穂は白く長い毛でおおわれ、長さ 4 mm の小穂が 2 個ずつ対になり、密に花穂を出します。綿毛におおわれた種子は、

風を受けて遠くまで飛んでゆきます。秋には葉が赤く色づき、草紅葉として楽しませてくれます。

又、根茎で糖を作るため、若い花穂には噛むとかすかな甘みがあり、昔は子供が野原で食べながら遊んでいました。江戸時代には子供のおやつとして「ツバナ売り」がいたと言われています。

チガヤは強い生命力、繁殖力を持つことから、聖なる植物とされて、悪霊を追い払う魔力があると信じられてきました。

端午の節句には、男子の健やかな成長を願い「粽(ちまき)」を食べます。

現在は笹の葉に包まれた「ちまき」ですが、チガヤに巻いたことが「茅巻き(ちまき)」の名前の由来です。

6 月は夏の暑さが始まり、心身の疲れや気力が衰えて病気になるやすい季節ですが、毎年 6 月の最終日に全国の神社で行われる「夏越の祓い(なごしのはらい)、又は(水無月の祓い)」では、神事の一つに「茅の輪くぐり」があります。この茅の輪は、茅萱(チガヤ)を大きな輪に編んで作られたもので、この輪を8の字に3度くぐって、厄災を祓い清めます。

この他、乾燥した茎や葉は昔から、屋根ふき、火口、食用などに使用された有用植物でした。漢方薬ボウコン(茅根)は利尿薬、止血薬としています。

チガヤは繁殖力が強く、世界では嫌われ者の草の一つですが、日本では緑化植物として、草丈を管理しながら、堤防などの緑化に用いられます。(上村)



チガヤの花穂



夏越(なごし)の祓いで行われる「茅の輪くぐり」の輪

水生昆虫の話

カワゲラの仲間 (ナガカワゲラ属)

広島県緑化センターの小川には、とても多様なカワゲラの仲間が生息していますが、今回は、鮮やかな橙色っぽい色合いで艶やかでスマートなフォルムが印象的で、まるでカワゲラ界のクイーンかヒロインのようなイメージのナガカワゲラ属についてご紹介したいと思います。

ナガカワゲラ属は、現在国内で3種とされているようですが、未確認種もあり、幼虫の間はとても同定が難しい種でもあります。

カワゲラの幼虫は、長い触角と2本の尾、胸部が前・中・後胸と比較的明確であり、それぞれ一對のしっかりした丈夫そうな足には爪が二つ、また足付け根に糸状の鰓(エラ)を持つ種が多いので、それらの特徴からカワゲラであることを見分けることができます。

この写真のカワゲラは、緑化センター小川の丘陵地で、流れが緩やかな落ち葉が堆積している場所の川底で見つかりました。

終齢幼虫の体長は2.5センチ前後で、雑食性寄りの肉食性であると考えられており、2〜3年程度の幼虫期間を経て、春に成虫が出現します。

水温が低めのきれいな水で、小さな水生生物やそのエサとなるデトリタス(生物由来の物質の破片や生物の死骸、排泄物を起源とする微細な有機物粒子)が豊富だからこそ、肉食性の多様なカワゲラが生息することが出来る訳です。

ちなみに、成虫は右の写真のような姿をしています。種類によって大きさも様々で、全体的に黒っぽいものや黄色っぽいものや、翅が透明なものもあります。

これからの季節は、小川の近くや電灯の下、窓灯りなどに集まっていたりします。

成虫の姿も独特でカッコイイので、ぜひ探してみてくださいはいかがでしょうか。(西村)



ナガカワゲラ属



カワゲラの成虫(オオヤマカワゲラ)

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(20)

オオギボウシゴケモドキ

5月に行いました湿地園でのコケの観察会では、20種類が確認できました。そのうちニスビキカヤゴケ、コツリガネゴケは以前紹介しましたが、今回はオオギボウシゴケモドキを紹介します。

セン類のオオギボウシゴケモドキは、ブナ帯の樹幹に着生していることが多いのですが、低地では石灰岩上でよく見られ、湿地園では石積のコンクリート部分に生えています。一次茎は這い、二次茎は多くの茎を出し、小さな森のように見えます。

葉は卵形で、葉先は尖り、中肋は葉先まで達します。

葉の細胞に細かい突起があり、そのため光沢がありません。

樹皮状に分岐するオオトラノオゴケやコクサゴケと間違えそうですが、光沢がないことで区別できます。(山根)



オオギボウシゴケモドキ

研修会のご案内

- | | |
|---|--|
| <p>○6月 1日(水) 『松の手入れ(春)』 基本を学び、屋外で実技指導を行います ※要予約(先着15名)、無料、剪定鋏・手ノコ持参</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合 講師：NPO 法人 樹木医ひろしま 工藤 徹</p> |
| <p>○6月 8日(水) 『常緑樹の剪定講座』 ～春の手入れを学ぼう～ 基本を学び、屋外で実技指導を行います ※要予約(先着15名)、無料、剪定鋏・手ノコ持参</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合 講師：NPO 法人 樹木医ひろしま 工藤 徹</p> |
| <p>○6月 11日(土) 『6月の自然探勝』 ～初夏の自然を楽しもう～ ※自由参加、無料</p> | <p>10:00～12:00 多目的広場 集合 講師：森林インストラクター 野田 圭一</p> |
| <p>○6月 24日(金) 『落葉広葉樹の見分け方』 実物の枝や葉を用いて見分け方を学びます ※自由参加、無料、ルーペ持参</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合 講師：森林植物研究者 埴田 宏</p> |
| <p>○6月 26日(日) 『梅雨のきのこ入門観察会』 園内を歩きながら生えているキノコの説明を聞きます ※要予約(先着15名)、無料</p> | <p>10:00～12:00 学習展示館前 集合 講師：きのこアドバイザー 川上 嘉章</p> |

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆お知らせ・ご案内☆

第20回ひろしま「山の日」県民の集い (レストハウス前広場)

6月5日(日) 10:00～15:00

森の体験(除伐活動、要予約)、森のネイチャーゲーム、自由工作塾、ノルディック・ウォーク体験会(要予約)



◎ 展示会

場所:レストハウス
(ボード展示)

第11回ひろしま遊学の森

「こども写生大会」作品展 6月4日(土)～6月30日(木)

(ガラスケース展示)

陶友会「陶芸作品」展 ～6月28日(火)

場所:学習展示館(ボード展示)

季節の花 写真展 ～6月30日(木)



第11回ひろしま遊学の森
「こども写生大会」作品展より